



平成29年2月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

平成28年10月5日

上場会社名 株式会社ジーフット 上場取引所 東 名
 コード番号 2686 URL <http://www.g-foot.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 堀江泰文
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役総合企画担当 (氏名) 秀島高広 TEL 03-5566-8215
 四半期報告書提出予定日 平成28年10月13日 配当支払開始予定日 平成28年11月8日
 四半期決算補足説明資料作成の有無： 有
 四半期決算説明会開催の有無： 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成29年2月期第2四半期の業績（平成28年3月1日～平成28年8月31日）

(1) 経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 四半期純利益 | |
|-------------|--------|------|-------|------|-------|------|--------|-----|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % |
| 29年2月期第2四半期 | 54,405 | 1.2 | 3,334 | 4.3 | 3,349 | 4.9 | 1,837 | 9.5 |
| 28年2月期第2四半期 | 53,777 | △0.5 | 3,196 | 16.4 | 3,192 | 16.0 | 1,678 | 6.9 |

| | 1株当たり 四半期純利益 | 潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益 |
|-------------|-----------------|----------------------------|
| | 円 銭 | 円 銭 |
| 29年2月期第2四半期 | 43.22 | 43.20 |
| 28年2月期第2四半期 | 40.28 | — |

(2) 財政状態

| | 総資産 | 純資産 | 自己資本比率 | 1株当たり純資産 |
|-------------|--------|--------|--------|----------|
| | 百万円 | 百万円 | % | 円 銭 |
| 29年2月期第2四半期 | 60,295 | 25,257 | 41.9 | 593.52 |
| 28年2月期 | 58,246 | 24,056 | 41.3 | 565.76 |

(参考) 自己資本 29年2月期第2四半期 25,236百万円 28年2月期 24,056百万円

2. 配当の状況

| | 年間配当金 | | | | |
|------------|--------|--------|--------|-------|-------|
| | 第1四半期末 | 第2四半期末 | 第3四半期末 | 期末 | 合計 |
| | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 |
| 28年2月期 | — | 9.00 | — | 10.00 | 19.00 |
| 29年2月期 | — | 10.00 | — | — | — |
| 29年2月期(予想) | — | — | — | 10.00 | 20.00 |

(注) 1. 直近に公表されている配当予想からの修正の有無： 無

3. 平成29年2月期の業績予想（平成28年3月1日～平成29年2月28日）

(%表示は、対前期増減率)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 当期純利益 | | 1株当たり 当期純利益 |
|----|---------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|------|----------------|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 円 銭 |
| 通期 | 107,500 | 3.4 | 6,000 | 8.8 | 5,950 | 8.7 | 3,100 | 10.1 | 72.91 |

(注) 1. 直近に公表されている業績予想からの修正の有無： 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

- ① 期末発行済株式数（自己株式を含む）
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数（四半期累計）

| | | | |
|----------|-------------|----------|-------------|
| 29年2月期2Q | 42,533,000株 | 28年2月期 | 42,533,000株 |
| 29年2月期2Q | 12,284株 | 28年2月期 | 12,284株 |
| 29年2月期2Q | 42,520,716株 | 28年2月期2Q | 41,657,116株 |

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外ではありますが、この四半期決算短信の開示時点において、四半期財務諸表に対する四半期レビュー手続を実施しております。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績の見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については[添付資料] P. 4 「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

| | |
|------------------------------|---|
| 1. 当四半期決算に関する定性的情報 | 2 |
| (1) 経営成績に関する説明 | 2 |
| (2) 財政状態に関する説明 | 3 |
| (3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明 | 4 |
| 2. サマリー情報(注記事項)に関する事項 | 4 |
| (1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 | 4 |
| (2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 | 4 |
| 3. 四半期財務諸表 | 5 |
| (1) 四半期貸借対照表 | 5 |
| (2) 四半期損益計算書 | 7 |
| 第2四半期累計期間 | 7 |
| (3) 四半期キャッシュ・フロー計算書 | 8 |
| (4) 四半期財務諸表に関する注記事項 | 9 |
| (継続企業の前提に関する注記) | 9 |
| (株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) | 9 |

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期累計期間(平成28年3月1日～平成28年8月31日)における靴小売業の経営環境は、子供靴・スポーツシューズの好調、婦人靴の低迷からの回復傾向はあるものの、インバウンド消費の落ちつきなど、個人消費の節約ムードや低価格志向がさらに強まるなど、依然として不透明な状況が続いています。

このような環境に対応すべく当社は、「デジタルシフト」「都市シフト」「シニアシフト」「アジアシフト」「地域密着」を事業展開の基本とし、商品の改革・売場の改革・人の改革・コストの改革を進めてまいりました。

商品の改革では、「ヘルス&ウェルネス」をコンセプトに、成長カテゴリーであるスポーツ部門がレディーススポーツを中心に好調な伸長となりました。サマーシーズン商品については、不安定な天候が続くなかでも「ライト&リラックス」をテーマとした商品開発を行い前年同期比9.1%増と大幅に伸長しました。また、生活節約志向の高まりに対応するため、「価値ある」オープニングプライス商品、機能価値の高い商品開発を行ない、客数の増加に貢献できました。

市場トレンドや消費スタイルの変化へ対応を行うことでP/B販売構成比は32.7%(前年同期比4.1ポイント減、売上総利益率1.1ポイント増)となりました。また、メーカー(ナショナルブランド)とのエクスクルーシブ(独占販売)商品の開発を進め、スポーツNB商品の売上総利益率も前年同期比1.1ポイント改善しました。

売場の改革では、アスビーの業態を進化させた複合専門店化を推進し、スポーツブランドのショッピングインショップ化・子供靴専門店アスビーキッズを複合した新業態を2店舗出店し、アスビー太田店(改装オープン後29.1%増)アスビー富士宮店(改装オープン後21.6%増)ともに昨年を上回る好調な売上となり、今後更に店舗数の拡大を図ります。グリーンボックスにおいては、今後マーケットの拡大が見込まれるキッズ部門の強化を図るために18店舗(新店3、既存店15店舗)へ子供靴新コンセプト売場「Kutsura(クツラ)」の導入を行ないました。ナショナルブランドスニーカーのベビー・チャイルドアイテムの品揃え等孫需要の新たなニーズへの対応を行うことで大きく伸長し100店舗体制に向けスタートを切りました。新業態店として3月にオープンしたスケッチャーズショップは、7月に2号店がイオンモールナゴヤドーム前店にオープンし、今後も30店舗程の出店計画を予定しています。

デジタルシフト対応では、店舗のタブレット端末をお客さまとのコミュニケーションツールとして活用促進し、ネット注文&店舗受取や、店舗注文&自宅配送などシームレスな購買環境実現に向け、オムニチャンネル化を推進しております。8月には、ジーフットアプリの導入とLINE@の運用強化を行ない、オムニチャンネル取扱高は前年同期比547.8%増の飛躍的な成長となりました。

人の改革では、従業員が有する多様なスキルや能力、価値観を活かして新しい価値を創造する「ダイバーシティ経営」を重要な柱と位置づけ、パートタイマーの社員化、女性管理職の増加、高齢者・障がい者の活用など働きやすい職場環境の整備、制度の充実に努めました。女性管理職比率は33.6%と確実に高まっています。

コストの改革では、新店・改装店舗投資金額の見直し、ワークスケジュール管理による人時効率の改善、物流コスト等間接コストの削減に取り組んだことにより、社員残業代の減少や物流費削減などの効果が現れてきています。また、不採算店舗の見直しにより14店舗の店舗閉鎖を推進するとともに新店出店18店舗とスクラップアンドビルドを積極的に進めました。

コーポレートガバナンスに関する実施状況では、独立社外取締役2名と独立社外監査役2名を配するなど監査役会設置会社を経営統治形態とし、ガバナンスの強化に取り組んでいます。

社会貢献活動では、国内におけるイオンモール新規開店に伴う植樹活動への参加や、カンボジアでの植樹活動にも積極的に参加いたしました。また、お取引先さまと共同で、静岡の「ねむの木学園」において、「足元からの社会貢献」とし、支援活動を継続しています。

以上のような取り組みを推進した結果、当第2四半期累計期間の売上高は544億5百万円(前年同期比1.2%増)、売上総利益率47.3%(同0.5ポイント増)、営業利益33億34百万円(同4.3%増)、経常利益33億49百万円(同4.9%増)、本年4月に発生した平成28年熊本地震の特別損失165百万円を計上しましたが、四半期純利益は18億37百万円(同9.5%増)となり、営業利益・経常利益ともに6期連続の増益となりました。

当社はセグメント情報を記載しておりませんが、商品別売上状況は次のとおりであります。
商品別売上状況

| 商品別 | 売上高(百万円) | 構成比(%) | 前年同期比(%) |
|---------|----------|--------|----------|
| 婦人靴 | 13,821 | 25.4 | 93.3 |
| 紳士靴 | 8,574 | 15.8 | 95.5 |
| スポーツ靴 | 17,928 | 32.9 | 108.3 |
| 運動靴・子供靴 | 10,605 | 19.5 | 109.7 |
| その他 | 3,475 | 6.4 | 92.4 |
| 合計 | 54,405 | 100.0 | 101.2 |

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

(資産)

当第2四半期会計期間末の総資産は602億95百万円となりました。

これは主に新規出店による売上預け金及び商品の増加により、前事業年度末と比較して20億49百万円の増加となりました。

(負債)

当第2四半期会計期間末の負債は350億37百万円となりました。

これは主に長期借入金の増加により、前事業年度末と比較して8億47百万円の増加となりました。

(純資産)

当第2四半期会計期間末の純資産は252億57百万円となりました。

これは主に利益剰余金の増加により、前事業年度末と比較して12億1百万円の増加となりました。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期累計期間における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は前事業年度末に比べ2億20百万円増加し、23億38百万円となりました。

なお、当第2四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの主な要因は、次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期累計期間において主に税引前四半期純利益29億52百万円の計上、売上債権及びたな卸資産の増加18億98百万円、仕入債務の減少10億61百万円により、使用した資金は68百万円(前年同期比34億30百万円の収入減)となりました。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期累計期間において主に有形及び無形固定資産の取得による支出3億89百万円、敷金及び保証金の差入による支出76百万円により、使用した資金は7億円(前年同期比34百万円の支出減)となりました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期累計期間において主に短期借入金の減少7億円、長期借入れによる収入26億円、長期借入金の返済による支出4億84百万円により、得られた資金は9億90百万円(前年同期比37億33百万円の収入増)となりました。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成29年2月期通期の業績予想につきましては、現時点では平成28年7月6日に公表いたしました業績予想から変更はありません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期財務諸表

(1) 四半期貸借対照表

(単位:百万円)

| | 前事業年度 (平成28年2月29日) | 当第2四半期会計期間 (平成28年8月31日) |
|---------------|-----------------------|----------------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金及び預金 | 2,117 | 2,338 |
| 売掛金 | 247 | 233 |
| 売上預け金 | 2,497 | 3,778 |
| 商品 | 36,661 | 37,286 |
| その他 | 1,852 | 2,188 |
| 流動資産合計 | 43,378 | 45,825 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | | |
| 建物(純額) | 3,611 | 3,715 |
| 土地 | 898 | 898 |
| その他(純額) | 461 | 422 |
| 有形固定資産合計 | 4,971 | 5,036 |
| 無形固定資産 | 385 | 359 |
| 投資その他の資産 | | |
| 敷金及び保証金 | 6,286 | 6,084 |
| その他 | 3,228 | 2,989 |
| 貸倒引当金 | △3 | — |
| 投資その他の資産合計 | 9,511 | 9,073 |
| 固定資産合計 | 14,868 | 14,469 |
| 資産合計 | 58,246 | 60,295 |
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 支払手形及び買掛金 | 22,534 | 21,473 |
| 短期借入金 | 4,800 | 4,100 |
| 1年内返済予定の長期借入金 | 835 | 1,395 |
| 未払法人税等 | 1,044 | 1,249 |
| ポイント引当金 | 163 | 134 |
| 賞与引当金 | 233 | 276 |
| 役員業績報酬引当金 | 4 | 4 |
| その他 | 3,020 | 3,270 |
| 流動負債合計 | 32,636 | 31,904 |
| 固定負債 | | |
| 長期借入金 | 641 | 2,197 |
| 退職給付引当金 | 31 | 31 |
| 資産除去債務 | 826 | 847 |
| その他 | 53 | 56 |
| 固定負債合計 | 1,553 | 3,133 |
| 負債合計 | 34,189 | 35,037 |

(単位:百万円)

| | 前事業年度 (平成28年2月29日) | 当第2四半期会計期間 (平成28年8月31日) |
|--------------|-----------------------|----------------------------|
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 3,749 | 3,749 |
| 資本剰余金 | 3,579 | 3,579 |
| 利益剰余金 | 15,744 | 17,156 |
| 自己株式 | △4 | △4 |
| 株主資本合計 | 23,068 | 24,481 |
| 評価・換算差額等 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 987 | 755 |
| 評価・換算差額等合計 | 987 | 755 |
| 新株予約権 | — | 21 |
| 純資産合計 | 24,056 | 25,257 |
| 負債純資産合計 | 58,246 | 60,295 |

(2) 四半期損益計算書
(第2四半期累計期間)

(単位:百万円)

| | 前第2四半期累計期間 (自 平成27年3月1日 至 平成27年8月31日) | 当第2四半期累計期間 (自 平成28年3月1日 至 平成28年8月31日) |
|------------|---|---|
| 売上高 | 53,777 | 54,405 |
| 売上原価 | 28,626 | 28,650 |
| 売上総利益 | 25,150 | 25,754 |
| 販売費及び一般管理費 | 21,954 | 22,420 |
| 営業利益 | 3,196 | 3,334 |
| 営業外収益 | | |
| 受取利息 | 0 | 0 |
| 受取配当金 | 25 | 27 |
| 受取保険金 | 8 | 2 |
| その他 | 1 | 2 |
| 営業外収益合計 | 36 | 33 |
| 営業外費用 | | |
| 支払利息 | 24 | 17 |
| 支払手数料 | 8 | — |
| その他 | 7 | 0 |
| 営業外費用合計 | 40 | 18 |
| 経常利益 | 3,192 | 3,349 |
| 特別利益 | | |
| 投資有価証券売却益 | 1 | 0 |
| 特別利益合計 | 1 | 0 |
| 特別損失 | | |
| 固定資産除却損 | 39 | 24 |
| 減損損失 | 121 | 133 |
| 災害による損失 | — | 165 |
| 関係会社出資金評価損 | 186 | 59 |
| その他 | 2 | 14 |
| 特別損失合計 | 349 | 397 |
| 税引前四半期純利益 | 2,844 | 2,952 |
| 法人税等 | 1,166 | 1,114 |
| 四半期純利益 | 1,678 | 1,837 |

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

| | 前第2四半期累計期間 (自平成27年3月1日 至平成27年8月31日) | 当第2四半期累計期間 (自平成28年3月1日 至平成28年8月31日) |
|-------------------------|---|---|
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 税引前四半期純利益 | 2,844 | 2,952 |
| 減価償却費 | 604 | 598 |
| 減損損失 | 121 | 133 |
| 関係会社出資金評価損 | 186 | 59 |
| 売上債権の増減額(△は増加) | 337 | △1,266 |
| たな卸資産の増減額(△は増加) | 1,668 | △632 |
| 仕入債務の増減額(△は減少) | △1,049 | △1,061 |
| その他 | △155 | 107 |
| 小計 | 4,556 | 891 |
| 利息及び配当金の受取額 | 26 | 27 |
| 利息の支払額 | △24 | △18 |
| 法人税等の支払額 | △1,196 | △969 |
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | 3,361 | △68 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 有形及び無形固定資産の取得による支出 | △312 | △389 |
| 敷金及び保証金の差入による支出 | △166 | △76 |
| 敷金及び保証金の回収による収入 | 49 | 81 |
| 貸付金の回収による収入 | — | 30 |
| 関係会社出資金の払込による支出 | — | △149 |
| その他 | △306 | △197 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | △735 | △700 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 短期借入金の純増減額(△は減少) | △1,600 | △700 |
| 長期借入れによる収入 | — | 2,600 |
| 長期借入金の返済による支出 | △892 | △484 |
| 配当金の支払額 | △250 | △424 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | △2,743 | 990 |
| 現金及び現金同等物の増減額(△は減少) | △116 | 220 |
| 現金及び現金同等物の期首残高 | 2,358 | 2,117 |
| 現金及び現金同等物の四半期末残高 | 2,242 | 2,338 |

(4) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。